

日本語基礎能力テストの項目プールの作成

研究紀要 No.28 (平成10年5月)に掲載

倉元直樹・前川眞一・小野博・林部英雄・内田照久
(旧姓 平)

児童・生徒に対する基礎的な日本語の単語の理解力を測定するための適用範囲の広い日本語基礎能力テスト項目が開発された。本テストは2つの下位テストから構成されている。基本的な日本語の単語についての471項目の多枝選択形式の基本語彙テスト(語彙テスト)と977項目の自由記述形式の基本的な漢字の読みのテスト(漢字テスト)である。双方の下位テストとも、6歳程度から18歳程度までが適用範囲である。

それぞれの下位テストは11の版からなっており、小学校1年生から高校3年生までの児童・生徒に実施された。項目反応理論の2パラメタモデルに基づき、約3,000人分のデータを用いて各版毎に項目パラメタの推定を行い、その後共通尺度に等化された。項目プールの共通尺度において、語彙テストの場合、各学年ごとの尺度値の平均は小学校1年生の80から高校3年生の120、漢字テストでは66から116の範囲に分布している。標準偏差は、語彙テ

ストでは下の学年で約4、上の学年では10程度、漢字テストの場合は、小学校1年生の約10を例外として、3～5程度となった。

テスト利用に関しては、下位テスト版をそのまま利用することも可能であるが、被験者の特性に応じた適応形テストの作成も可能である。今後、第二言語として日本語を習得した者、特殊な言語環境で日本語を習得した者にどの程度適用可能であるかを検討するため、Rule Space Methodology等のテスト分析法を応用して項目内容の認知的特徴を検討することが課題となるであろう。

研究紀要の印刷後、漢字テストの数値に誤りが発見され、一部の記述に訂正、および、削除を行う必要が生じた。訂正内容は「大学入試センター研究紀要(号数未定)」誌上への掲載を申し入れている。なお、誤りの訂正により、漢字テスト利用において、項目の選択に特別な配慮をする必要はないことが確認された。